

令和元年度第1回理事・支部長会報告

報告者 小林 晃子

日時：令和元年9月1日(日) 11:00~12:30

場所：山口南総合センター

出席者：理事14名、支部長11名

報告事項

1. 令和元年度日本薬剤師会学校薬剤師部会報告 沖田会長
8月に理事2名が技術講習会に参加、今年か来年に伝達講習を行う予定。
2. 令和元年度事業方針、年間事業計画について 沖田会長
来年度の県薬との一体化に向けて会則を今年度中に決める予定。
第2回の学校薬剤師会研修会は2月に予定。
3. 令和元年度機器購入について 沖田会長
県教育委員会に20万円を限度に機器購入を依頼予定。内容は検討中。
各支部より県で機器を購入して欲しいとの要請がよくあるが、県で購入した機器は基本的には県立高等学校等で使用するための機器であり、市立校や町立校で扱う検査機器はその市町で購入することが基本となるので、まずは各市町の教育委員会に要請をして欲しい。
4. 第43回 山口県学校環境衛生研究大会報告（yp ジャーナル参照） 小林大会副実行委員長
5. その他：日本薬剤師会学術大会で学校薬剤師会が2題発表予定。 小林理事
くすり教育について、認定こども園について
6. 各支部への依頼事項
たばこの害に関する講義は県の健康増進課からの委託事業なので、報告書には薬物乱用防止についてではなく、たばこの害について書くようにしてください。
7. 各支部より（抜粋）
 - ・ 会員の高齢化に伴う人員の確保が難しい。薬局を引退した薬剤師は学薬も辞めてしまう。
 - ・ 病欠の薬剤師に代わって検査をする体制が整っていない支部がある。
 - ・ 講習会を開催するなど会員を増やす努力をするが、なかなか結果に結びつかない。
 - ・ こども園が急増しており、会員数を増加させたいが難しい。幼保連携は学校薬剤師が必要。
 - ・ 支部長が支部内の検査を把握するようになって検査率が上昇した。
 - ・ 給食センターが稼働するようになり、配膳室の管理についてが課題。